

金 城 次 郎 年 譜

宮 城 篤 正

金城次郎は現在、沖縄陶器で県指定を受けている唯一人の技能保持者である。この年譜では陶工金城次郎の履歴を出来るだけ浮彫りにしようと試みたものである。しかしながら年譜に記載されたひとつの事象はいってみれば永山の一角のようなものであって、その裏にある彼の素顔をみなければならないと思っている。

彼は長年好んで魚や海老の線彫りをしてきており、その図柄は彼独特の境地を切り開いている。これは一例であるがすべてこのように彼の豪放磊落の性格が作品の上にもそのまま表われていて他の追随を許さない。ここでは彼の作品について論ずることが主目的ではないので割愛するとしてとにかく彼は沖縄陶器の伝統をよくふまえて作陶に励んでいる。その点で彼は第一人者であり、それに加えて明るい性格は人々から愛され、また作品も人気があり、親しまれている。参考までに昭和49年度「文化財要覧」より無形文化財工芸技術の部（個人指定）をみると

1. 指定年月日、昭和47年11月21日

2. 指定名称、 沖縄陶器

3. 技能保持者、金城次郎

4. 指定理由、 沖縄の陶器は中国、朝鮮、本土の影響を受け、沖縄の風土の中で独自なものとして発達してきた。金城次郎氏は幼少より陶工として伝統的な手法を学び、現在に於ては技量は抜群と認められる。氏の人格を反映した作品は素朴重厚なものとなり、県内は言うに及ばず本土の著名な展示会でも数々の賞に輝き、その作品の陶器界に与える影響は大きい。



抱 瓶 (戦前作)

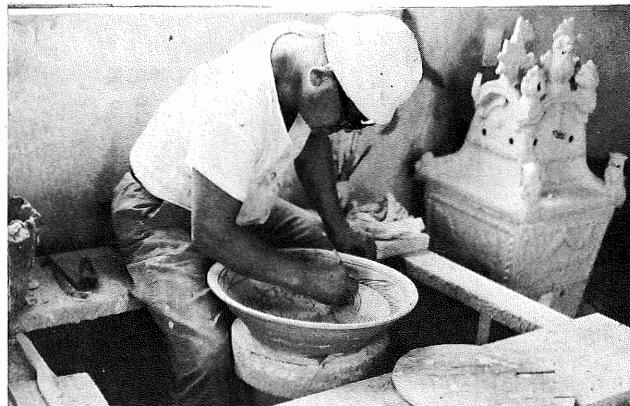
高さ11.4cm 径18.0cm

—当館所蔵—

これまでよくいわれてきたことではあるが、沖縄の美術工芸についての文献の乏しさは常に痛感することである。だから沖縄における美術史、工芸史を調べようと思うとすぐにその壁にぶつかってしまう。美術家や工芸家の年譜などは展覧会のパンフレットに多少出る程度で殆んど皆無に等しい。まして陶工というふうにしばってみると全くお手上げという他はない。多少の例外を除けば昔から陶工たちの名前や作品も殆んど今日に伝わらないのが通常であった。また美術家、工芸家を問わず現在でもまめに自分の年

譜をまとめている人は少ない。ましてや毎日の作陶にあけくれる忙しい陶工であってみればなお更のことと思われる。金城次郎についてみても同様なことがいえる。前に彼について書く機会があったので、そのときに彼の略年譜を作ったことがあった。そのときも、あれこれ資料探しに奔走したことはいうまでもない。

今回、年譜をまとめるにあたっては多少不安があった。というのは限られた日数ではどうしても見落しがあることを認めざるを得ないからである。この年譜は今後更に未調査部分や欠落個所を埋めるための作業を継続する必要がある。多少手間取るがこの方法でしかいまのところ年譜のまとめようはないように思われる。



制作中の金城次郎
(昭和48年8月撮影)

年 譜

年 令	年 代	事 項
0 歳	1912(大正元)	12月3日 那覇市与儀に生れる。
7 歳	1919(大正8)	真和志尋常高等小学校入学。
13 歳	1924(大正13)	2月 壺屋にはいり陶器を習う。12月 浜田庄司、新婚旅行で壺屋に滞在、翌年3月まで制作する。
※	1927(昭和2)	浜田庄司来島、壺屋で赤絵を制作する。
25 歳	1936(昭和11)	10月 屋比久カメと結婚、長男敏男生れる。
26 歳	1937(昭和12)	8月 長女須美子生れる。
※	昭和12・3年頃	旭窯業にて3ヵ年ほど陶工として働く。
※	1939(昭和14)	12月 柳宗悦他民芸協会員27人来島、翌年1月まで滞在。
※	1940(昭和15)	3月 柳宗悦夫妻他7人来島およそ2ヵ月滞在する。夏、柳宗悦他2人来島。
29 歳	1940(昭和15)	7月 兵隊に召集さる(3ヵ月間)熊本輜重隊藤崎部隊に配属さる。
32 歳	1943(昭和18)	10月 二男敏昭生れる。
34 歳	1945(昭和20)	2月 防衛兵として召集さる。ただし11日間で解除され、壺屋の東窯にて軍需品の碍子、食器、電池入れなどを製作する。6月 沖縄戦終る。10月頃壺屋の開放、窯業の復興にとりかかる。
35 歳	1946(昭和21)	1月 那覇市壺屋に窯を開らく
43 歳	1954(昭和29)	3月 第6回沖縄工芸展に新設により出品(以後、今日まで連続出品)。

44歳	1955(昭和30)	12月 第1回陶芸2人展(新垣栄三郎と)開催。
		3月 第7回沖縄展に「青磁指描果物鉢」他13点出品。
		4月 第29回国展初入選(以後連続出品)
		12月 第2回陶芸2人展開催。 ※この頃、龍門司窯、益子の窯場を視察する。
45歳	1956(昭和31)	3月 第8回沖縄展に「三彩変形瓶」他11点出品。
		4月 第30回国展において新人賞受賞。
		12月 第3回陶芸2人展開催。
		3月 第9回沖縄展に「線彫大皿」他18点出品。
46歳	1957(昭和32)	4月 第31回国展において「呉須絵大壺」が国画賞受賞、国展推薦新会友となる。
		12月 第4回陶芸2人展開催。
		3月 第10回沖縄展に「菱型黒釉花瓶」他26点出品。
		※ルーマニア国立民芸博物館に「抱瓶」と「魚文大皿」の2点永久保存。 ※琉球政府より全琉県産品愛用運動週間に優良賞受賞。
47歳	1958(昭和33)	12月 第1回陶芸3人展(新垣栄三郎、小橋川永昌と)
		3月 第11回沖縄展に「黒型大花瓶」他45点出品。
		12月 第2回陶芸3人展開催。
		3月 第12回沖縄展に「黒流し角瓶」他14点出品。
48歳	1959(昭和34)	4月 第33回国展に「長型三島魚文花瓶」出品。
		※第4回大阪国際見本市に出品。
		12月 第3回陶芸3人展開催。
		3月 第13回沖縄展に「黒線彫大花生」他4点出品。
49歳	1960(昭和35)	12月 第4回陶芸3人展開催。
		3月 第14回沖縄展に「三島大抱瓶」他4点出品。
		7月 沖縄民芸展(東京)出品。
		8月 美術工芸展に「盛付大花瓶」他6点出品。
50歳	1961(昭和36)	12月 第5回陶芸3人展開催。
		※この頃、丹波の窯を視察す。
		3月 第15回沖縄展に「絵付大皿」他4点出品、沖縄創立15周年にあたり、沖縄タイムス社より感謝状を受ける。
		12月 第6回陶芸3人展開催。
51歳	1962(昭和37)	3月 第16回沖縄展に「ルリ色抱瓶」他4点出品。
		12月 第7回陶芸3人展開催。
		3月 第17回沖縄展に「飴釉窯変茶碗」他4点出品。
		4月 第39回国展に「果物皿」出品。
52歳	1963(昭和38)	12月 第8回陶芸3人展開催。
		3月 第18回沖縄展に「絵付大皿」他4点出品。
		12月 第9回陶芸3人展開催。
		3月 第20回国展に「黒釉大花瓶」他4点出品。
53歳	1964(昭和39)	12月 第10回陶芸3人展開催。
		3月 第21回国展に「黒釉大花瓶」他4点出品。
		12月 第11回陶芸3人展開催。
		3月 第22回国展に「黒釉大花瓶」他4点出品。
54歳	1965(昭和40)	12月 第12回陶芸3人展開催。
		3月 第23回国展に「黒釉大花瓶」他4点出品。
		12月 第13回陶芸3人展開催。
		3月 第24回国展に「黒釉大花瓶」他4点出品。

			※この頃小鹿田、小石原の窯場を観察。
55 歳	1966(昭和41)		3月 第18回沖縄展に「耳付盛付壺」他4点出品。 ※明治神宮例大祭奉祝第4回全国特産物奉獻式に「長型花瓶」献納。 12月 第1回芸術選賞秀作選抜工作展に「線彫抱瓶」他4点出品。
56 歳	1967(昭和42)		12月 第9回陶芸3人展開催。 2月 沖縄タイムス芸術選賞大賞受賞。 3月 第19回沖縄展に「青地嘉瓶」他4点出品。 4月 第41回国展に「一輪花瓶」と「急須」出品。 11月 日本民芸館展に「象嵌唐草文鉢」入選。
57 歳	1968(昭和43)		12月 第10回陶芸3人展開催。 3月 第20回沖縄展に「耳付花瓶」他4点出品。 4月 日本民芸館同人選現代沖縄民芸展へ出品。 11月 日本民芸館展に「海老文彫絵皿」入選。 12月 第11回陶芸3人展開催。
58 歳	1969(昭和44)		3月 第21回沖縄展に「電気スタンド」他4点出品。 4月 第43回国展において会友優作賞受賞。 5月 沖縄壺屋3人展(東京)開催 7月 広島市にて第1回個展開催。 7月 日本の名匠「神々の器」壺屋の陶器金城次郎撮影(制作NET、日経映画社)。 9月 富山市にて個展開催。 11月 三彩盒子他日本民芸館賞受賞。 12月 第12回陶芸3人展開催。 ※三彩釉蓋物が「民芸」12月号(第204号)の表紙となる。 ※嘉手納空軍基地総合芸術センターへ出品展示。
59 歳	1970(昭和45)		3月 第22回沖縄展に「丸絵花瓶」他4点出品。 4月 第44回国展に「魚文大鉢」2点出品。 5月 沖縄壺屋窯3人展(東京)開催。 11月 日本民芸館展に「唐草文大鉢」他5点入選。 12月 金城次郎作陶展(東京)開催。 12月 第13回陶芸3人展開催。
60 歳	1971(昭和46)		1月 岡山市にて個展開催。 3月 第23回沖縄展に「魚文壺」他4点出品。 4月 第45回国展に「魚貝文大鉢」と「竹型イッチン花瓶」出品。 6月 第1回日本陶芸展に「白掛魚文線彫大皿」入選、翌年海外巡回展。 7月 広島市にて第2回個展開催。 8月 ふるさとの心シリーズその4、「沖縄の陶器」に出演(制作琉球放送)。

		※この年備前、酒津の窯を視察す。
61 歳	1972(昭和47)	<p>3月 第24回沖展に「青磁指描花瓶」他4点出品。</p> <p>3月 沖縄壺屋窯3人展（東京）開催。</p> <p>5月 沖縄物産センターにて個展開催。</p> <p>10月1日 読谷村座喜味に窯を開く。</p> <p>11月 日本民芸館展に「点彩釉茶器」他9点入選。</p> <p>11月21日 沖縄県指定無形文化財（技能保持者）に認定さる</p>
62 歳	1973(昭和48)	<p>※この年妻カメ死去。</p> <p>1月 読谷壺屋初窯展開催。</p> <p>3月 第25回沖展に「台付海老文花瓶」他1点出品。沖展25周年にあたり感謝状を受ける。</p> <p>4月 国画会会員となる。</p> <p>5月 日本民芸代表作家展へ出品。</p> <p>10月 沖縄三越にて第1回金城次郎新作陶芸展開催。</p> <p>11月 伝統工芸6人展（沖縄物産センター）へ出品。</p> <p>11月 日本民芸館展に「彫絵魚文大皿」他2点入選。</p> <p>※九州沖縄文化協会展出品。</p> <p>※「わたしの城」週刊朝日（7月13日）に掲載。</p>
63 歳	1974(昭和49)	<p>1月 現代民芸展（沖縄）出品。</p> <p>3月 金城次郎、宮平初子2人展（東京）開催。</p> <p>3月 日本陶芸巨匠大展（東京）に「双魚文大皿」、「海老文花瓶」、「三彩蓋物」出品。</p> <p>※沖縄の伝統「壺屋焼」週刊時事（3月9日）掲載。</p> <p>3月 第26回沖展に「白流し茶碗」他3点出品。</p> <p>8月 広島市において金城次郎作陶展開催。</p> <p>10月 京都国立近代美術館主催「沖縄の工芸」展に「蓋物」他出品。</p> <p>11月 沖縄県指定無形文化財工芸展に「海老文大皿」他5点出品。</p> <p>※個展（沖縄物産センター）開催。</p>
64 歳	1975(昭和50)	<p>3月 第27回沖展に「指描花瓶」他2点出品。</p> <p>4月 日本民芸館同人作品展へ出品。</p> <p>※飴緑釉線刻皿が「民芸」4月号（第268号）の表紙となる。</p> <p>※「わが家の夕めし」アサヒグラフ（7月25日）に掲載。</p> <p>11月 沖縄県指定無形文化財工芸展に「魚文大花瓶」他4点出品。</p> <p>11月 第4回金城次郎作陶展（沖縄三越）開催。</p>